

令和3年度 野庭地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

<地域の現状>

- ・コロナウィルスの感染状況が収まらず1年が経過する中、地域の既存の活動が制限され、繋がりのある関係、繋がりがづくりに大きな影響を与えており、自治会活動、サロン運営、ボランティア活動等に苦慮されています。
- ・野庭エリアは急速な高齢化に伴い、認知症高齢者も増加し日常生活において多種多様な問題が発生しています。
- ・小さなコミュニティ(町会、フロア、階段単位等)での見守り、助け合いができる仕組みが求められています。
- ・複雑な事情を抱えたご相談が増え、対象者の支援に限らず、家族も含めた世帯全体の支援が求められています。

<今後の方向性>

- ・コロナ感染拡大防止の取り組みの継続とコロナ禍での安全安心な地域活動支援
- ・総合相談対応の充実
- ・地域包括ケアの推進(見守り事業、介護予防・生活支援事業、地域支援者サポート等)
- ・港南ひまわりプランの推進

今年度の重点的な取組

新規  
継続

—具体的な取組内容—

<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域ケアプラザが地域の福祉保健の相談窓口であることが十分に伝わっていない現状があります。必要な方に必要な情報が届くように周知の仕方を工夫します。地域ケアプラザをご利用されていない方が行く場所・いる場所(移動販売、地域の集まり、見守り訪問等)に向き地域ケアプラザ冊子、ひまわりホルダーちらしなどを活用し情報を発信します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	コロナ禍で活動が制限される中、地域の皆様から体力低下や交流の機会が減少しているとの相談も増加しています。また外出控えや孤立化の傾向も強くなっています。感染予防に努めながらケアプラザ事業(にこにこ野庭サロン、子育て事業)を再開し交流の場・外出の機会を提供いたします。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	野庭エリアの高齢化率は37.3%。それに伴い認知症高齢者もさらに増加することが見込まれます。そのため「地域の見守り・助け合い」が欠かせません。認知症について世代を超えて理解や協力の輪が広がるように働きかけます。コロナ禍で認知症サポーター養成講座も休止状態となっています。今年度は感染予防に努め野庭エリアのキャラバンメイトと協力し地域住民を対象に認知症サポーター養成講座を開催します。また認知症高齢者の権利や財産を守るための制度の普及啓発も合わせて進めていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域では単身・高齢者世帯・認知症高齢者の増加により地域全体の日常生活課題が増えてきています。ケアプラザでは地域住民との交流の中で地域の課題(ゴミ出しや地域清掃、見守り・支え合い活動など)を把握します。また課題解決のために協議の場(協議体・地域ケア会議等)を作り関係機関に働きかけます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	野庭エリア内の居宅介護支援事業所を中心にエリア(野庭団地地区、野庭住宅地区、永野地区)の地区別計画について情報提供する場をつくります。ケアマネジャーが地域の状況を把握しケアプランに活かせるように各地区のネットワーク会議にケアマネジャーが参加できるよう働きかけます。また自立支援に向けたケアプランが作成できるよう予防プランの勉強会やケアマネジャー向けに「のび生活お役立ち情報通信」を発行いたします。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度もケアプラザ事業は、新型コロナウイルス感染拡大による影響を大きく受けました。その中でも予防対策の普及と意識の高まり、ワクチンや治療薬の使用が開始したことで緊急事態宣言下でも昨年であればサービス利用を自粛していた方が利用を再開、継続をされています。少しずつではありますがコロナ禍の日常生活が動き出しているのを感じています。しかし、地域の集いの場の多くは休止状態であり、ケアプラザ事業においても人数制限や再開に至らない事業もあります。その中で上期には集いの場である「にこにこ野庭サロン」が地域ボランティアの方々の協力を頂き再開することが出来ました。そのサロンの場でケアプラザのPRとして連絡先を掲載した手作りの菜を作成し活用して頂いております。中期にはキャラバンメイトの方々と認知症サポーター養成講座を再開しました。職域団体の方から認知症は身近な問題となっているのご相談を受け、普及啓発活動の必要性を再認識致しました。年間を通して、人との関りが減少している期間が長引き、孤立を深めている方や認知症状の悪化などの課題が総合相談からも見えてきました。地域の民生委員や見守りボランティアの方々の協力を得て支援につながったケースも多く見られました。移動販売の場や地域ボランティアの方々の見守り活動等が人と人とのつながりを作っているのだと改めて感じております。来年度も地域の皆様や関係機関・関係団体と連携し個別支援・地域支援に努めて参ります。

区からのコメント

課題が複雑化し、様々な職種が連携して支援しなければならないケースが増えています。また単身の高齢者世帯も多く、金融機関、交通機関、スーパー等からの相談も増加しています。そうした中、必要な訪問には迅速かつ丁寧な対応をしていただいていると感じます。今後も、区役所だけでなく、障害分野の支援機関など様々な機関との支援体制づくりに期待します。キャラバンメイトの定例会、認知症サポーター養成講座など継続的に実施することは、幅広い世代の方に認知症の理解を広げ、支援者のネットワークづくりにつながります。引き続き、地道な積み上げを継続していただければと思います。

令和3年度もコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施など年度を通じて流動的な対応が求められました。そうした中でも、地区別計画の推進を通じた地域づくりに向けて、区役所や区社会福祉協議会とも連携しながら、各種の取組にご尽力頂きました。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。